

くらしの文化財探索 4

厚木市郷土資料館

一四三〇〇〇三 厚木市寿町二十五・二十六

「くらしの文化財」とは何でしょうか。文化財として国や県、市町村から指定されていなくとも、「ふるさと」にとって大切なものはたくさんあります。あつぎに暮らす者として、「民俗文化財」とは何か、どのような意味を持つのか、それを「くらしの文化財」資料から実感し、興味を深めていきます。自分自身の日常生活、生活慣行を、民俗文化財としてみなおすためのイベントとなるような講座を目指しています。

*

会員は衣・食・住の三グループに別れ、具体的な作業に取り組んでいます。住のグループからは、「三グループのテーマはそれぞれ分離して存在しているわけではない。有機的に絡み合った展示もあっていいのではないか」ということで、「茶の間の再現」コーナーが一つ提案され、他のグループも同意しました。もっとも、食のグループは元から同意見だったようで、「茶の間の再現展示を第一テーマとしていたの」でうちの展示が第二、第三のテーマに縮小されてしまつ」というような抗議もあったのですが、場所も展示室前ホールということを決まりました。

各グループそれぞれの展示も、なかなか興味深いものです。定期の講座以外の日に集まって打ち合わせをするグループが増え、展示資料の選択をめぐってメールの交換なども行われているようです。

七月二十八日に行われた第五回目の会では、静岡大学准教授の金子敦さんに「モノから探る教育の歴史」というテーマで話していただきました。このテーマは、私たちが取り組むテーマを衣・食・住・ブラス学・遊と考えていたからでした。今回は3グループに分かれ、学、遊についての展示は行わないことになりましたので、金子さんには申し分けなかったのですが、博物館学、展示学の教鞭をとっている金子さんのお話はテーマを離れても十分に勉強となりました。金子さんから展示という作業が、「政策」や「思想」といった観念からではなく、「具体的なモノ」を通して、テーマ(この場合は教育)の実態を浮かび上がらせることであり、それは「無言」なモノから、言葉を引き出す作業でもあるということを学びました。

普段、大学生を相手に話をされている金子さんの話は少し難しいところもあったのですが、「あまり反応のない学生を相手に話すより、刺



激になりました」との感想をもらいました。金子さんの話が面白かったこともありますが、会員の集中力もすばらしいと感じました。

今回の展示ではこの「学」にあたる部分は資料館の方で担当いたします。といっても資料館に収蔵されている学校関連の資料を紹介する程度のもですが、教

面をご覧ください。一つは竹とんぼ教室、そしてわらべうたと和楽器によるミュージアムコンサートです。「遊び」の展示は少し難しいので、講座で代えてしまおうというところですが、こちらでも会員によるパフォーマンスです。今回の展示会は、あくまでも市民協働ということにこだわっています。ということで、神奈川県立歴史博物館の学芸員で、普及企画課長でもある長田 平さんに「博物館における市民との協働の可能性」というタイトルでお話してもらいます。県立博物館をはじめ、神奈川の博物館では市民がどのように博物館と協働しているのか、厚木の活動はどんな位置にあるのかを考える上で、意義深いものです。

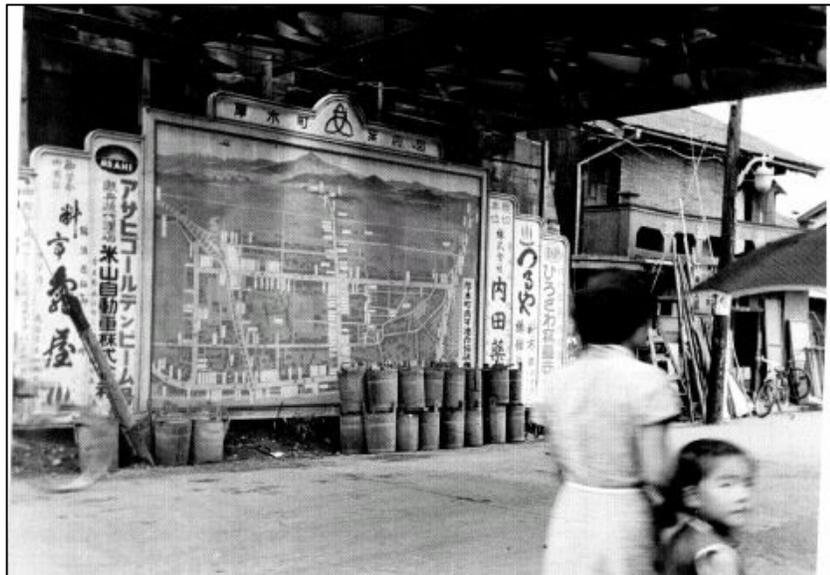
そして、今回のメインターゲット小学校四年生をはじめとする子供たちへ、自分たちの思いをどう伝えていくのか。教科書にでている「おじいさん、おばあさんに聞いてみる」ことが不可能な古い時代のことではなく、本当にこの世代の方が経験してきたこと、自分たちのくらしがどう変わってきたのかを「資料」によって説明し、伝えるということがどのような意味をもつか。

「科書」に関する展示会の予告のようなものにしたとを考えています。これも会員の方々の意見を聞きながら進めていきたいと考えています。

*

さて、「遊」の方はどうなってしまうかという声にお応えして、考えたのが、いくつかの講座です。次頁の「広報あつぎ 九月一日号」八

以前、「あつぎ写真館」の展示で相原さんたち市民カメラマンの方々が残してくれた一九五〇～六〇年代の厚木の世界が確かにあります。そして、一方この展示を作っている会員の多くは厚木の外から来てお住まいの方です。甘いお雑煮を食べていたという秋田県出身の会員もいれば、盆のスナモリをみたこともなかった方もいます。この方たち



にとつて「厚木」とは何か、どんな「厚木」を作つていきたいのか。住み続けたい街・厚木を作るといふことはどういふことなのか……。十月六日の講座では、市内の小学校の先生方に展示を解説していただくだけでなく、先生方が、このテーマをどのように考えていて、どういふ思いをもっているのか、を相互確認できるチャンスでもあり、ミニシンポジウムのようになれば大成功だと思っています。

繰り返しになりますが、今回の展示には、さまざまの意味で、学芸員が企画した展示にはないものが期待できます。乞つこ期待
(担当 大野)

第32回収蔵資料展

かわってきた私たちの暮らし

～おじいちゃん・おばあちゃんと昔探索しよう!～

昭和30年ごろの小田急通り (現・なちよう大通り)

わたしたちの暮らしがどのように変わってきたか、昭和30年代を中心に「衣・食・住・遊・学」にかかわる資料を市民とともに展示。ちょっと昔の暮らしを振り返ります。

日時 9月8日(土)～10月14日(日)
9時～17時

会場 郷土資料館

《期間中の催し》

- ★体験講座「むかしのあそび～竹とんぼ教室～」
9月8日(土)、13時30分～15時
- ★ミュージアムコンサート
「わらべうたと和楽器」出演 琴三人の会
9月10日(月)、13時30分～15時
- ★講演会「博物館における市民との協働の可能性」
10月7日(日)、13時30分～15時

箱籠

炭火アイロン

洗濯桶とたらい

関文化財課 ☎225局2515